

研究・調査報告書

報告書番号	担当
2	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
Outpatient alcoholism treatment--24-month outcome and predictors of outcome. アルコール依存の外来患者の 24 ヶ月における結果とその予測因子について	
執筆者	
Soyka M, Schmidt P.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Subst Abuse Treat Prev Policy. 2009 Jun 29;4:15.	
キーワード	
アルコール依存症 外来患者 治療成績	
要旨	
<p>目的： 外来者における 24 ヶ月の治療成績の効果を予測するために、アルコールに関連する要因を明確にすることを目的とした。</p> <p>方法： 92 人のアルコール依存症の患者の前向き観察研究で実施した。評価は、治療の始めと終了時、それから 24 か月後に個人インタビューによって行った。解析は単変量解析を用いた。</p> <p>結果： 平均年齢は 46.0 (SD = 9.9) 歳で、58 人の男性 (65.2%) と 31 人の女性 (34.8%) であった。2 年後のフォローアップ期間に面談された 67 人の患者のうち、58%は断酒しており、79%は改善した。断酒できた群と出来なかった群の相違は過去における解毒（薬物治療）の治療回数と、自殺企図の患者数が異なっていた。加えて、女性と過去の治療回数が高い者ほどネガティブな治療結果を予測した。</p> <p>結論： 経験に基づいた患者背景に基づいた治療が適合している患者は治療成績の改善に関与するのかもしれない。しかし、本研ではこの領域において信頼できる予測因子を確立することは出来なかった。この追跡研究のデータから、一定の臨床結果を予測する要因について確認することができた。加えて、外来治療におけるアルコール依存症患者の治療は定着率（84%）と禁酒率（脱落者をすべて非禁酒者と見積もった場合 44%）であるという新たなエビデンスを明らかにした。</p>	